

令和8年6月13日

西川木楽会 振り返り

事務局長 宮島義和

西川木楽会 35 年の足跡

■ 設立準備からユガテの森づくり本格化（平成3年～平成14年）

平成3年（1991年）

林野庁の指導により、西川地域の若き担い手21名が集結。

「西川地域林業青年会議準備会」を結成。

飯能林業事務所に事務局を設置。

山の荒廃を防ぐため、西川地域の現状や問題点の整理を実施。

林業の活性化へ向けての提言を実施。

平成6年（1994年）

9月3日、旧南川小学校にて「西川木楽会」の設立総会を開催。

設立時の会員数は166名でスタート。（初代会長：吉野勲氏）

映画「あらかわ」の上映会を実施。

イス製作などの木工教室を開催。

「西川の林業～明日の林業を見つめて」（講師：栗原知司氏など）

あけぼの子ども森公園にて森林の手入れ作業体験を実施。

平成7年（1995年）

林業体験「山の下草刈教室」を実施。

ハイキング「山を見に行くべえ」を実施。

ウディランド東京（木造住宅展示場）の視察を実施。

ムーミン谷の山遊びとして、森の大プランコ作り等を実施。

会員アンケート調査を実施（87名参加）。

平成8年（1996年）

飯能市虎秀の「ユガテ」にて伐採作業見学を実施。

ユガテにて初めて丸太販売を実施し、82名が参加。

秩父郡大滝村で開催された「地域林業活性化フォーラム」に参加。

木楽会シンポジウム'96「いまなぜ国産材なのか」（講師：有馬孝蔭氏・松江和子氏）

林業体験教室（名栗村上名栗焼山入林道）で下刈りを実施。

ユガテの森づくりのための自由討議を実施。

平成9年（1997年）

ユガテの山林所有者と30年間の無償山林使用協定を締結。

木楽会シンポジウム'97「市民参加で行う森づくり」（基調講演：坂井武志氏）

約1ヘクタールの伐採跡地で植樹祭を実施し「ユガテの森づくり」が本格スタート。

地域林業活性化フォーラム「住まいから林業を考える」（基調講演：岡田悟氏）
広報紙「ユガテの森から」第1号を発行。
入間万燈まつりへの出展・参加を開始。
ユガテの秋の勤労感謝祭で竹筒バウムクーヘン作りに挑戦。

平成10年（1998年）

飯能JC主催「ユガテこども森林塾」に協力し、189名の子どもたちを指導。
子どもたちに対して間伐、枝打ち、植林の指導を実施。
地域林業活性化フォーラム「多様な意見を反映した森づくり」（基調講演：木平勇吉氏）
オーク・ヴィレッジや榑川村立榑川小学校など先進地の視察を実施。
ユガテの森にヤマザクラやコナラなどの広葉樹・針葉樹を継続して植栽。
広報紙「ユガテの森から」第2号・第3号を発行。

平成11年（1999年）

MORIMORI ネットワークと共催で「ユガテの森木の里親植樹祭」を実施。
神奈川県の林業グループコンクールに参加。
サワラ、ケヤキ、トチノキ、イチヨウ等の多様な樹種をユガテに植栽。
定例活動としてユガテの森の下刈りや除伐などの保育作業を継続。
山仕事昔がたりなどの聞き取りや学習活動を推進。
地域林業活性化フォーラム「化学物質過敏症と自然素材でつくる住まい」（講師：宮田幹夫氏）を開催しました。

平成12年（2000年）

日本財団のボランティア活動支援事業の助成を受ける。
ユガテの森に活動拠点となる物置小屋（倉庫）を建設。
ユガテの森でのヒノキ、サワラの追加植栽を実施。
飯能市などの地域イベントへの参加を継続しPR活動を実施。
森づくりと並行して、間伐材の有効利用に向けた検討を開始。
園田安男氏による講演会「あすの林業と森林ボランティア」を開催しました。

平成13年（2001年）

ユガテの森の道普請、地拵え等の環境整備作業を実施。
定例の下刈り作業や林内整備を継続的に実施。
入間万燈まつりに参加し、木工品等の販売で活動をPR。
山林所有者との連携強化や会員の親睦行事を実施。
地域住民との交流を通じた森林ボランティアの啓発活動を推進。
田村説三氏を招き、「里山の自然と人びとの暮らし」と題した講演会を開催しました。

平成14年（2002年）

名栗で開催された埼玉県植樹祭に参加。
長年の活動が評価され「埼玉県知事賞」を受賞。
NPO 法人設立に向けた準備委員会を発足させ、会議を重ねる。
入間万燈まつり等への出展を通じ、木工品や森の恵みを提供。
天覧山景観間伐見学会など、地域の森林保全活動に参加。

■ NPO 法人化と活動の多様化（平成 15 年～平成 24 年）

平成 15 年（2003 年）

11 月に埼玉県知事から特定非営利活動法人（NPO 法人）として認証を受ける。

12 月に法人登記を完了し、事務所を COM ハウスへ移転。

川の中を見てもよう（高麗川での自然観察）を実施。

飯能市市民会館で「森林文化フォーラム」を開催。

平成 16 年（2004 年）

一般市民が参加できる「山の学校」を毎月第 2 日曜日に開校。

「地球温暖化防止の森林づくりボランティア活動支援事業」を実施。

西川材フェアに参加し、木作品の展示販売を実施。

間伐材を利用したベンチやプランターの製作・受注を本格化。

平成 17 年（2005 年）

飯能名栗エコツーリズムのパイロット事業としてエコツアー「大ブナに会いに行こう」を実施。

エコツアーの様子が NHK「首都圏ネットワーク」で放映される。

間伐材の有効活用策としてユガテにログ倉庫の建設を開始。

飯能市社会福祉協議会から「ボランティアセンター協力団体」の顕彰を受ける。

会員の卒業論文「西川の山仕事師・中里吉平氏の記録」の作成を支援。

平成 18 年（2006 年）

竹林整備事業としてサイサンの助成を受け、竹炭窯を設置し竹炭づくりを開始。

旧南川小学校でエコツアー「むかし遊びをしよう」を盛大に開催。

荒川流域一斉水質調査に協力し、高麗川の水質を調査。

「山のみちサポーター」として権現堂線の不法投棄物回収などを実施。

木工旋盤を設置し、お椀や皿などの木工品の製作を開始。

平成 19 年（2007 年）

セブンイレブン緑の基金により、燻製窯を設置。

第 16 回全国雑木林会議 in 飯能にて「ユガテの森を巡る体験ツアー」を実施。

駿河台大学の駿輝祭にてクラフトづくりや木工実演を実施。

西川材フェアで「木とふれあう」をキャッチフレーズに箸づくり体験等を実施。

平成 20 年（2008 年）

国土緑化推進機構の助成で移動式製材機や薪割機などを導入。

間伐材の自前での製材が可能となり、「木の活用」が大きく前進。

埼玉県から「武蔵野の森再生事業調査計画策定業務」を受託。

飯能市の虎秀地区と日高市の横手地区で森林の現地踏査と林況調査を実施。

平成 21 年（2009 年）

「単線循環集材（シグザグ集材）」の基礎を学ぶ講座を開催。

運搬用の軽トラックや製品保管倉庫を導入し、作業効率を向上。

ユガテの森の活動をまとめたカタログ「ユガテの森へ」を作成。

「みどりの埼玉づくり県民提案事業」で中津川のシオジの森を訪問。

三富企画展等の地域イベントに出展。

平成22年(2010年)

ユガテ広場の畑で「ひまわり栽培」を実施。
エコツアー「冬芽に会いに行こう」等の自然観察会を開催。
うなうなフェスタ2010で手作り木工品の展示販売を実施。
吾野まつり等の地域の祭りで活動PRを実施。

平成23年(2011年)

飯能新緑ツーデーマーチ会場で第1回「一本木コンテスト」の作品展示を実施。
オイスカ山梨県支部 田中美津江氏を招き「環境ボランティア活動」講演会開催。
東日本大震災後の「復興市」に出店し支援活動を実施。
自伐林家の技術向上を目指す「自伐林家応援講座」を開催(伐採・搬出・製材技術)。
名栗湖上流から蔵山までのキノコ観察を中心としたエコツアーを実施。
各種イベントの中止や縮小の中、安全・安心なキノコ栽培に注力。

■ 次世代へのアプローチと新たな展開(平成25年~現在)

平成24年(2012年)

NPO法人秩父百年の森の島崎武重郎氏らによる「山・里・街が連携した新しい林業」講演会を開催。

第2回「一本木コンテスト」の展示・表彰式を実施。
天覧山谷津の里山復活祭に協力しキノコ汁を提供。
ユガテの竹林の間引き作業を実施し、景観の改善を図る。
コナラの木を伐採し、シイタケ栽培用の原木づくりを実施。
入間万燈まつりで「シイタケフライ」を販売し大好評を得る。

平成25年(2013年)

大河原章吉氏を招き「これからの西川材の活用 一本の木を大切に使う」をテーマとした記念講演会を開催しました。

これまでの長年の活動が評価され「埼玉県知事感謝状」を受賞。
ユガテ広場の畑でひまわりを咲かせ、お花見会を実施。
ユガテ周辺のヤブツバキの森づくり(補植や剪定)に着手。
「この字なんの木」のパネルを飯能市へ寄贈。
西川材フェアで「木と遊ぼう広場」を担当。

平成26年(2014年)

飯能市エコツーリズム・アワードで「飯能市長賞」を受賞。
「森林・山村多面的機能発揮対策事業」の取り組みを開始。
第2回「一本の木オーディション」を開催し、作品集を発行。
ユガテの森のエコツアーや木工体験を複数回実施。
地域環境保全として荒れている里山林や竹林の手入れを実施。

平成27年(2015年)

埼玉県社会福祉協議会表彰を受賞。
「真壁と暮らし部会」が西川材の木製ジャングルジム「くむんだー」を製作。
駿輝祭やイベントで「くむんだー」の組み立て・解体体験を提供。
ユガテ広場西側のスギ・ヒノキ林を伐採し、新たな景観づくりに着手。

平成 28 年 (2016 年)

日本伐木チャンピオンシップ出場者の飛田京子氏による「林業と安全な作業」講演を開催。
老朽化した竹炭窯のリニューアルを実施。

エコプロダクツ川越 2016 で「組むぞー西川材」が最優秀賞を受賞。

スマイルファミリーフェスティバル（西武ドーム）に出展し木工体験を提供。

はんのう市民環境会議環境フェスタ等でコマづくり・箸づくりを実施。

天覧山谷津の里山復活祭でキノコ汁作りを担当。

平成 29 年 (2017 年)

吉野勲氏が代表を退き、和泉由起夫氏が新代表理事に就任。

浅見徳男氏による「資料で見る飯能地方の林業」記念講演会を開催。

「山の日」に合わせて第 1 回ユガテ木工まつりを開催。

ユガテ広場周辺にイロハモミジ 100 本、コナラ 130 本を植栽。

ユガテに植栽したヒガンザクラが初めて開花。

監視カメラを設置し、ニホンジカやイノシシなどの生息を確認。

平成 30 年 (2018 年)

早稲田大学名誉教授 天野正博氏による講演会「地球温暖化と森林生態系」

各種エコツアーや子ども向け森林教室の受け入れを多数実施。

「和の住まい推進リレーシンポジウム in 飯能」に参加。

エコラボフェスタ等で「くむんだー西川材」の体験を提供。

西川材フェアで「こども大工認定」賞の授与に協力。

令和元年 (2019 年)

伊藤弥寿彦氏（自然史映像プロデューサー）による講演会「明治神宮 100 年の大実験」

第 2 回ユガテ木工まつりを開催。

エコツアーでカエデの樹液採取とメイプルシロップ作りを実施。

メイプルシロップを使ったパン焼き体験。

ユガテ広場周辺にイロハモミジ、ヒガンザクラ、ヤマツツジを植栽し獣害防止カバーを設置。

駿輝祭や入間万燈まつりなどに出演し木工体験・販売を実施。

令和 2 年 (2020 年)

新型コロナウイルスの影響により多くの活動が中止や縮小。

第 3 回ユガテ木工まつり、規模を縮小して開催。

ユガテ広場周辺に植栽した苗木の獣害防止対策などを継続。

令和 3 年 (2021 年)

自由の森学園の鬼沢真之氏による記念講演会「地域森林資源を活かした学園経営と教育」
を開催。

西川材（ヒノキ）でフィンランドの民族楽器「カンテレ」の試作品を製作。

フィンランド協会主催のカンテレコンサートに協力。

賽銭箱や灯籠などの木工品の製作依頼に対応。

令和 4 年 (2022 年)

東京大学大学院教授 恒次祐子氏による講演会を開催しました。

「次世代へ繋げ！奥武蔵の森づくりプロジェクト」が県の助成事業に採択。

情報発信のため、ホームページの刷新と三つ折りパンフレットを作成。

地域からの要請で、ブルーベリー農園の管理・収穫支援・販売を開始。

秩父市のギンナン栽培農家への収穫支援と販売を開始。

飯能市の補助を受け、ユガテ広場に手洗い用タンクや休憩用ベンチを設置し、ポータブル電源やソーラーパネルを導入。

次世代向けのアプローチにより新規会員の獲得に成功。

東京大学大学院の恒次教授らを招き「次世代の森づくりシンポジウム」を開催。

令和5年(2023年)

根羽村森林組合 参事今村 豊氏による講演会「根羽村森林組合のトータル林業」を開催
ブルーベリーの収穫・販売など、地域支援事業の充実化を図る。

3年ぶりに入間万燈まつりに参加し、対外的なPR活動を再開。

ユガテの森で「次世代・森づくりイベント」を実施し、シイタケ植菌や製材体験を提供。

令和6年(2024年)

筑波大学付属坂戸高校教諭 建元喜寿氏による講演会を開催しました。

「豊かな森と人の環境を次世代へ」をテーマに活動を展開。

県の「森林ボランティア育成事業」の補助金を受け、竹炭窯を7年ぶりにリニューアル着工。

ユガテ広場のハイカー向け東屋製作。

令和7年(2025年)

全国植樹祭のサテライト会場(所沢エミテラス)に出展し、県の森林・木材情報を発信。

東京農業大学准教授 茂木もも子氏による講演会「都市近郊の森林・林業への眼差し」を開催しました。

新窯での竹炭づくりを本格スタート。

マイタケの原木栽培に取り組み、初めて収穫・販売に成功。

美杉台児童館の夏休み木工教室で子どもたちに木工指導を実施。

エコツアー「ユガテの森で秋の味覚を味わう」を実施し、きのこ採取と調理を提供。

ミニ門松づくりのエコツアーを開催。

令和8年(2026年)

1月に安全祈願祭および自由討論会を実施。

小型ウインチ「引っ張りだこ」を使用したコナラの玉切りや運び出しなどの定例活動を実施。

人力での原木運び出し作業などを通じた継続的な森林整備。

3月にブルーベリー農園の剪定・堆肥散布支援を実施。

シイタケの植菌作業やヒラタケのサンドイッチ植菌作業を実施。